

## 第5章

地域特性を活かした

「鯖江型」の取り組み

進捗状況確認・評価シート集

## 5-1 スポーツ施設、総合型地域スポーツクラブなど、充実したスポーツ環境の有効活用

### (1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

鯖江市には、総合体育館やスポーツ交流館などの公共スポーツ施設や公民館併設体育館などの屋内施設をはじめとして、グラウンドや陸上競技場などの屋外競技用の施設も数多くあり、平成21年度には、一層の施設活用を図るため、丸山公園多目的広場の芝生化整備を行っています。これに加え、小・中学校の体育館では開放学校が行われており、開放学校を含めるとスポーツのできる施設は市内全域にいきわたっており、スポーツ環境は大変充実しています。

今後は、これら施設の効率的活用、利便性の向上を図り、市民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるように、恵まれた施設の有効活用を目指します。

また、総合型地域スポーツクラブについては、鯖江市は中学校区単位で設立されており、これまでに確立された体制・組織を築き上げてきましたが、今後子どもから大人まで幅広い世代の技能や興味に応じて、更なる活動内容の充実を図り、加入者増などの底辺拡大を図れるよう支援していきます。

さらに、総合型地域スポーツクラブの自立した活動が、これまでの行政主導によるスポーツ振興策にはない施策を展開していき、地域住民の要望にも対応できるなど、「新しい公共」として形成されるよう支援していきます。

### (2) 特徴的な取り組み

- ・開放学校、公民館併設体育館の各種スポーツ団体への開放など、共同利用の促進
- ・開放学校、公民館併設体育館における登録団体や利用手続きの見直し
- ・未利用時間帯における施設の有効活用
- ・性別や各年齢層のニーズに応じたスポーツ教室などの活動プログラムの見直し・充実
- ・「新しい公共」を担うコミュニティ拠点としての総合型地域スポーツクラブの充実・発展（財政面での支援、NPO法人など法人格取得への支援 など）

### (3) 現状とこれまでの取り組みの総括

本市は、屋内施設、屋外競技用の施設に加え開放学校を含めると、市内全域にスポーツ施設がいきわたり、利用者数も年間35万人規模まで増加していることから、スポーツに親しみやすい環境づくりが順調に進んでいます。

また、総合型地域スポーツクラブは、加入者数は、少子化の影響もあって減少傾向にあるものの、2,200人規模で推移していることから、市民が気軽にスポーツに親しむための地域の窓口として重要な役割を果たしています。

その一方、(2)に掲げるような施設利用者向けの運用改善措置や各種見直しなどの取り組みについては、現在まで具体的には実践されていない。

### (4) 今後の方針

スポーツ施設の利用者数を今後も伸ばしていくためには、充実したスポーツ環境を維持し

## 第5章 地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み

ていくことが前提となるので、各施設の長寿命化を基本とした更新整備計画による計画的な維持管理を行い、その上で、利用者の意向を尊重した有効利活用のための運用改善措置や見直しに取り組みます。

また、総合型地域スポーツクラブは日常的なスポーツ活動の拠点であり、更なる活動内容の充実を図り、加入者増などの底辺拡大を図ることを基本に、これまでに構築された組織・体制の評価を行い、今後の方向性を含めて検討していきます。

### 中間評価（効果・有効性等）

進捗状況の 評価	今後の方向性 の確認	推進委員会の提言

5-2 全国トップレベルの子どもの体力の維持・向上

(1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

平成22年度に実施された「小学校新体力テスト調査」によると、福井県は全国でもトップレベルにあり、中でも鯖江市は県内トップレベルの体力を維持しています。しかし、全国的な傾向となっているスポーツをする子、しない子の体力格差、いわゆる「二極化」が進んでおり、鯖江市においても、年齢が高くなるほど個人差が広がる傾向がみられます。

このため、学校教育での体育活動はもとより、家庭、地域、学校が連携し、遊びやスポーツに親しむことのできるスポーツ環境づくりを積極的に進めます。

更に、より多くの子どものスポーツ活動に参加し、体力を向上できるように、子どもの体力づくりに対する市民のスポーツ意識の向上の啓発を進めます。

■ 小中学生の運動能力の全国平均、県平均との比較

《小学生》

	男子			女子		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年
上体起こし	◎	◎	△	◎	◎	◎
長座体前屈	◎	◎	◎	△	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	△	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	△	◎	△	△	◎	◎
ソフトボール投げ	▲	△	▲	▲	△	△
20mシャトルラン	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	◎	◎	△	◎	△	○

◎：市の平均が全国平均、県平均より優れている

○：市の平均が県平均より優れている

△：市の平均が県平均より劣っている

▲：市の平均が全国平均、県平均より劣っている

《中学生》

	男子			女子		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
上体起こし	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長座体前屈	◎	◎	◎	◎	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	◎	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソフトボール投げ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	▲	▲	◎	◎	◎	◎

◎：市の平均が全国平均、県平均より優れている

▲：市の平均が全国平均、県平均より劣っている

(出典：新体力テスト(全国平均は平成21年度、県と市平均は平成22年度))

(2) 特徴的な取り組み

- ・学校と総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団など各種スポーツ団体との連携(学校と地域で活動できる指導者の養成・確保など)
- ・スポーツ少年団の活動内容の充実、各競技団体間の連携強化
- ・総合型地域スポーツクラブの小中学生向けプログラムの見直し・充実
- ・放課後児童クラブにおける運動やスポーツに親しむ機会の提供

(3) 現状とこれまでの取り組みの総括

平成27年度に実施された「新体力テスト」においても、福井県は、小・中学校で全国でもトップレベルにあり、中でも鯖江市は、県内トップレベルの体力を引き続き維持していることから、学校と地域の連携、家庭の理解と支援が、全体的に円滑に関係にあると考えられます。

■ 小中学生の運動能力の全国平均、県平均との比較

小学生	男子						女子					
	H22年度			H27年度			H22年度			H27年度		
	4年	5年	6年									
上体起こし	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長坐体前屈	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	△	◎	△	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎
ソフトボール投げ	▲	△	▲	△	△	△	▲	△	△	△	△	△
20mシャトルラン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	◎	◎	△	◎	▲	◎	◎	△	○	◎	▲	◎

中学生	男子						女子					
	H22年度			H27年度			H22年度			H27年度		
	1年	2年	3年									
上体起こし	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長坐体前屈	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△
50m走	◎	◎	◎	◎	▲	△	◎	◎	◎	◎	△	◎
立ち幅跳び	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ハンドボール投げ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
持久走	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	▲	▲	◎	○	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(出典：新体力テスト(全国平均は平成21・26年度、県と市の平均は平成22・27年度))

しかし、一層進む少子化の影響もあり、スポーツをする子、しない子の体力格差、いわゆる「二極化」の傾向は本市においても例外ではなく、また、年齢が高くなるほど個人差が広がる傾向があり、誰もが気軽に親しめるスポーツ環境づくりが求められています。

(4) 今後の方針

これまでに同様、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団活動を軸として、家庭、地域、学校が連携し、遊びやスポーツに親しむことのできるスポーツ環境づくりを積極的に進めるとともに、市民スポーツふれあい事業やスポーツ親子教室などを通して、子どもの体力づくりの大切さに対する市民の意識向上に努めます。

中間評価（効果・有効性等）

進捗状況の 評価	今後の方向性 の確認	推進委員会の提言

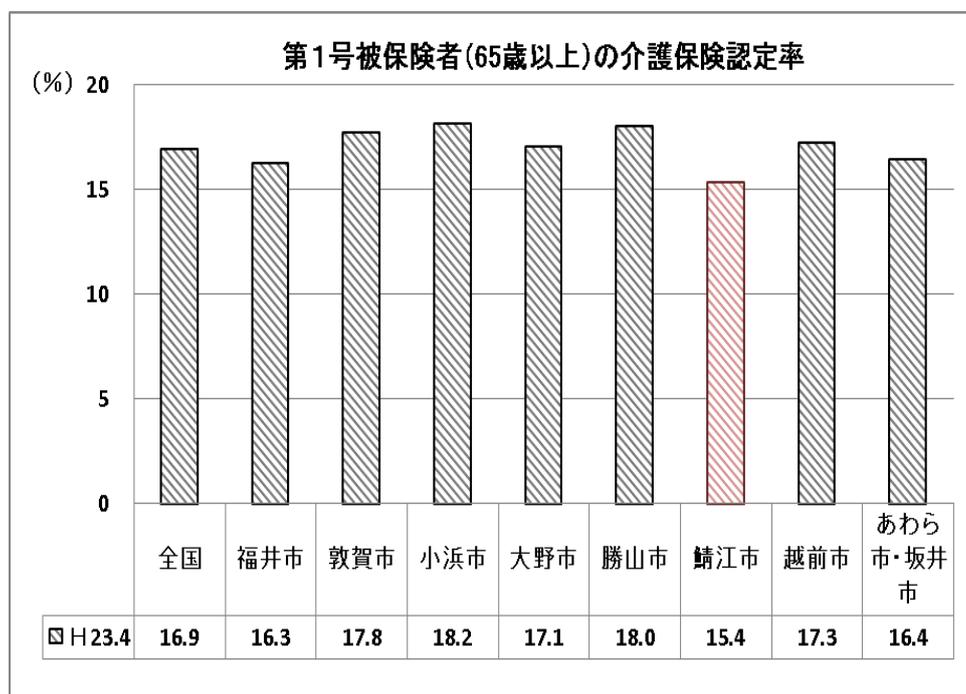
5-3 健康・長寿を目指した生涯スポーツの推進・展開

(1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

福井県は健康寿命（日常的に介護を必要としない自立した生活ができる生存期間）が全国でトップクラスですが、中でも鯖江市は高齢者全体に対する要介護認定を受けている割合が県内9市で最も低く（H23：介護保険事業状況報告）、元気な高齢者が多いといえます。

しかしながら、鯖江市の人口は平成22年をピークに減少に転じ、少子高齢化の進行により、平成47年には、老年人口の割合が30%を超えることが予測されています。

今後とも、高齢者のみならず、性別、年齢、障がいの有無などに関わらず、全ての市民がその自発性のもと、各々の興味・関心、適性などに応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整備し、「健康と長寿の推進」に取り組みます。



(2) 特徴的な取り組み

- ・鯖江市民スポーツふれあい事業の拡大・充実
- ・鯖江市民体育大会の見直し・充実
- ・鯖江市生涯学習スポーツ人材バンクの普及・活用
- ・障がいのある人も参加しやすいメニューへの見直し（スポーツ大会やイベント など）

(3) 現状とこれまでの取り組みの総括

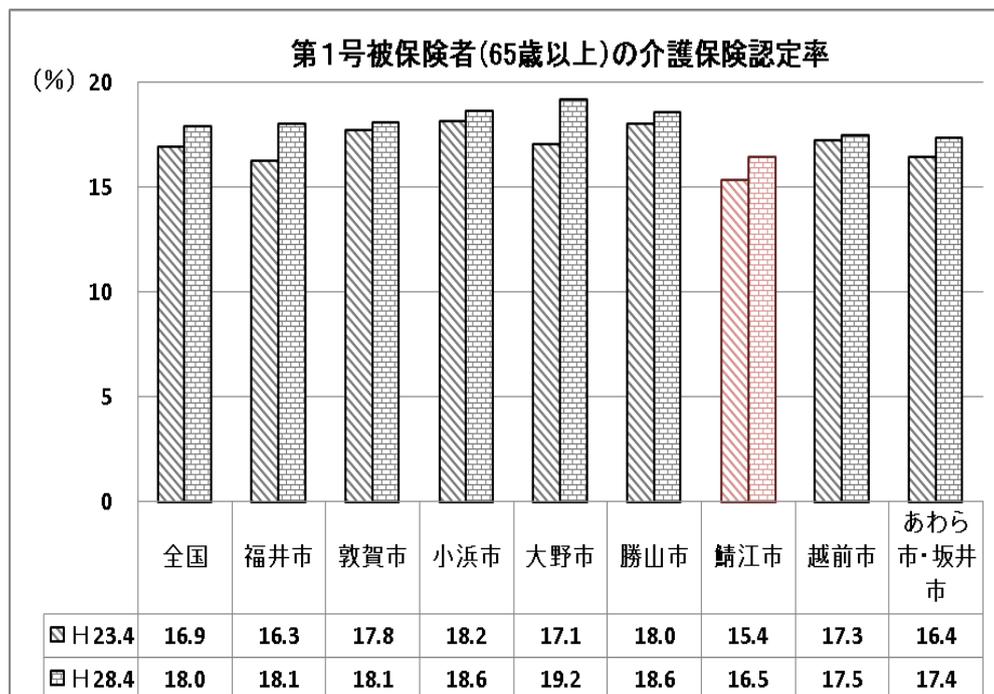
平成27年10月に策定された「鯖江市人口ビジョン」によれば、鯖江市の人口は今後減少を続け、平成72年には、約51,700人になると推計されています。また、老年人口は平成52年ごろまで増加し続け、平成72年には高齢化率が約34%に達し、国と同様、急速に少子・

第5章 地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み

高齢化が進むと予測されており、基本的環境は、本スポーツ振興計画策定時と同様な状況にあります。

その中で、本市の65歳以上の介護保険認定率は、県内9市で最低を引き続き保っていることから、健康づくりや介護予防の観点からの社会参加や生きがいくりに向けた市の取り組みが、一定の成果を上げていると考えられます。

その一方、(2)に掲げる生涯スポーツへの参加機会の充実、拡充に向けた取り組みは、これまでのところ具体的な成果が見られません。



※あわら市・坂井市は坂井地区介護保険広域連合の数値を使用

(出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告」平成23年・28年各4月分)

(4) 今後の方針

高齢者のみならず、性別、年齢、障がいの有無などに関わらず、全ての市民が健康で生きがいをもち生活できるよう、それぞれの体力や運動能力に応じてスポーツを楽しめる環境づくりを継続的に進める必要があり、これまでの取り組みを強化することに加え、健康づくり、生きがいくりに、障がいの程度や適性に応じたスポーツ教室の参加者の拡大に努めます。

中間評価 (効果・有効性等)

進捗状況の 評価	今後の方向性 の確認	推進委員会の提言

## 5-4 体操・駅伝の振興で育むスポーツのまちづくり

### (1) 鯖江市の地域特性と今後の方向性

鯖江市は二度にわたる世界大会など「体操のまち鯖江」として知られており、近年は小中学校、および高校を中心として駅伝大会でも好成績を収め、全国大会にも出場しています。

今後とも、体操・駅伝の振興を通じたまちづくりを進めるため、「体操のまち」「駅伝のまち」として全国に向けたPRを強化するとともに、鯖江市を代表するスポーツとして、市民意識の高揚とスポーツのイメージアップを図り、市民一人ひとりが誇りをもって支援していく体制を構築します。また、より一層の競技力向上のための支援を進めます。

#### 《鯖江市で開催された主要な大会》

##### ○体操競技

平成7年10月	1995年世界体操競技選手権大会鯖江大会
平成10年5月	1998年体操競技ワールドカップ決勝鯖江大会
平成11年8月	第30回全国中学校体操競技選手権大会
平成17年7月	第44回NHK杯体操競技鯖江大会
平成19年8月	第28回北信越国民体育大会体操・新体操競技会
平成20年9月	第41回全日本社会人体操競技選手権大会
平成21年8月	第42回全日本社会人体操競技選手権大会
平成22年7月	2010西日本ジュニア体操競技選手権大会
平成23年6月	平成23年度北信越高等学校体育大会（体操競技・新体操）選手権大会
平成23年9月	平成23年度北信越ジュニア体操（体操競技・新体操）選手権大会

##### ○駅伝競走

平成17年4月	第18回都道府県対抗全日本マスタースターズ駅伝福井大会
平成18年11月	平成18年度北信越高等学校駅伝競走大会
平成23年11月	平成23年度北信越高等学校駅伝競走大会

※上記のほか、平成15年度より、小学生、中学生、高校、都市対抗の各部門全てを福井県駅伝大会として、毎年、鯖江市東公園陸上競技場にて開催

### (2) 特徴的な取り組み

- ・体操、駅伝などの市内小中学校、高校の競技力向上への支援
- ・市民一人ひとりが参加できる支援体制の構築
- ・各種メディアを通じた「体操のまち」、「駅伝のまち」としての全国的なPRの強化
- ・鯖江市を代表するスポーツとしての市民への周知徹底、自発的な支援活動の促進

### (3) 現状とこれまでの取り組みの総括

近年も、各層別で全国規模の選手権大会を本市において開催しており、名実ともに「体操のまち鯖江」としての地位を確立している。また、駅伝競走でも中学、高校の県大会開催が

## 第5章 地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み

定例化し、「駅伝のまち鯖江」のイメージも定着している。

また、競技力の面においても、市内中学、高校の体操部は全国大会で常に上位に名を連ね、駅伝でも市内高校の陸上部が全国大会の常連校になっているなど着実に成果を上げているが、クラブやスクールなどジュニア時代からの地道な育成・強化の取り組みに依るところが大きい。

その一方、(2)に掲げる「体操のまち」、「駅伝のまち」としての全国的なPR展開や、鯖江市を代表するスポーツとしての市民意識の高揚に向けての具体的な取組は、これまでのところありません。

### 《鯖江市で開催された主要な大会》

#### ○体操競技

平成 24 年 8 月	平成 24 年度全国高等学校総合体育大会（体操競技・新体操）選手権大会
平成 25 年 11 月	2013 全国ブロック選抜U12 体操競技選手権大会
平成 27 年 6 月	平成 23 年度北信越高等学校体育大会（体操競技・新体操）選手権大会
平成 27 年 8 月	平成 23 年度北信越中学校（体操競技・新体操）選手権大会
平成 27 年 9 月	第 48 回全日本シニア体操競技選手権大会
平成 28 年 8 月	第 70 回全日本学生体操競技選手権大会【第 73 回国民体育大会（福井しあわせ元気国体）体操競技プレ大会】
平成 28 年 8 月	第 47 回全国中学校体操競技選手権大会

#### ○駅伝競走

平成 28 年 11 月	平成 28 年度北信越高等学校駅伝競走大会（予定）
--------------	---------------------------

※上記のほか、中学、高校部門の福井県駅伝大会を毎年、鯖江市東公園陸上競技場にて開催

### (4) 今後の方針

目前に迫った平成 30 年「福井しあわせ元気」国体において、開催県にふさわしい成績を獲得することはもちろん、2020 東京オリンピックをも見据え、競技会等の機会充実、意欲向上への支援、指導者育成など、競技力向上のための育成・支援体制の強化を図ります。

また、福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の開催を絶好の機会ととらえ、全国から本市を訪れる関係者や観覧者に「体操のまち」「駅伝のまち」としてPRすることにより、本市を代表するスポーツとしてのイメージアップと市民意識のさらなる醸成を図り、市民一人ひとりが自信と誇りを持って応援・支援できる体制を推進します。

#### 中間評価（効果・有効性等）

進捗状況の 評価	今後の方向性 の確認	推進委員会の提言